

11月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和2年11月末現在〕

令和2年12月11日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」「売上高」「収益状況」の主要3指標DIを見ると、すべてで悪化した。

業種別に見ると、製造業では、「収益状況」は変化がなかったが、「景況」「売上高」は、悪化した。非製造業では、「景況」「売上高」「収益状況」は全てで悪化した。

10月の回復の反動、新型コロナウイルス第3波による外出自粛等により全体で数値が悪化した。

景況DI

製造業は、前月比11.5ポイント悪化の-50.0ポイント、非製造業は、前月比4.1ポイント悪化の-33.3ポイント、全体では、前月比8.0ポイント悪化の-42.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比7.7ポイント悪化の-42.3ポイント、非製造業は、前月比25.0ポイント悪化の-20.8ポイント、全体では、前月比16.0ポイント悪化の-32.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比で変化なしの-50.0ポイント、非製造業は、前月比4.2ポイント悪化の-41.7ポイント、全体では、前月比2.0ポイント悪化の-46.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に業界景況ウォッチング連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和2年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	パン	公立小中学校、県立特別支援学校などで給食実施が正常通りに戻り、学校給食パンを製造する組合員は通常通り業務を行っている。しかし、未だコロナ禍は終息せず感染が拡大している。緊急事態宣言が出された場合の対応について、担当大臣より「現時点で春先のような全国一斉休校を要請することは考えていない」との発言があったが、今後が不安である。
	味噌	コロナ禍の影響で前年と比較して売上減少が続いている。
	酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県10月の清酒課税移出数量は、前年同月比102%と令和元年9月以来久しぶりにプラスとなり、本格焼酎についても同101.2%であった。しかし、前年10月が消費増税の影響で売上が大幅に減少していたため、例年と比較すると実質的にはマイナスと思われる。また、清酒の輸出については、新型コロナウイルスのパンデミックによる落ち込みから戻ってきており、10月の輸出数量（全国ベース）は前年同月比114.2%となっている。米国向けは依然厳しいが、香港・台湾・シンガポール向けが伸びてきている。欧米については新型コロナウイルス感染拡大により予測が立たない状況である。 ○県内当業界について 新型コロナウイルス感染拡大が落ち着いてくると酒の出荷も増加してくると思われるが、11月以降の新型コロナウイルス第3波により直近の状況は厳しくなっている。例月の3倍の売上が見込める12月の忘年会シーズンが今季のキーポイントとなるが、大規模の忘年会実施も見込めずさらに出荷が落ちるとと思われる。
	納豆	GoToトラベルにより観光土産品や業務用もいくらか回復してきたが、新型コロナウイルス感染者が増えてきているため今後の動向が心配。一般消費者用は前年並みであり変化はない。
	菓子	県内でもクラスターが発生し、外出自粛の傾向がみられる。客足も遠のいている。
	漬物	特に変化はなかった。
	織物	
繊維工業	袋物	売上は回復傾向にあったが、新型コロナウイルス第3波により組合員各社は苦戦中。唯一、高性能マスクの需要はある。
	衣服	
	製材	・新型コロナウイルス第2波の落ち着きもあり、土台や柱等の構造材が動き始めた矢先に新型コロナウイルス第3波における需要の不透明感があり、全体的に低調な動きだった。 ・丸太の出材が少なく、原木・製品共に価格が高騰している。 ・プレカット工場の稼働状況は、例年の秋需要と言うまでには至らず厳しい状況。 ・輸入材では、構造材や羽柄材の荷動きは順調に推移。
木材・木製品	県北地区プレカット	10月と同様に10坪くらいの倉庫等の物件が多く手間がかかるので、加工坪数がなかなか伸びない。12月もある程度加工予定は入っているものの、一棟当たりの建築面積が小さい。
	県央地区プレカット	先月に引き続き大型物件の加工もあり忙しかった。多少納材の遅れがあったが、12月の加工予定も埋まってきているので年内は忙しい状況が続くと思われる。
紙・紙加工品	段ボール	中小は売上が前年同月比10～30%減少しているなか、大手は前年並みの売上であり受注の確保が出来ている。一部では安価な見積提示により大手から中小にシフトした取引先もあったが、大手はインターネット通販関係や大手食品業者の取引先を多く持っており、中小は重工業系中心なことから差が歴然と数字に表れている。
	総合	年末を控えた受注もあるが、長引くコロナ禍の中で全体の経済活動の先細りから、それに伴う各種印刷需要も減少し、総体的な受注減少が続いている。引き続き業況は厳しい状況にある。
印刷		
化学・ゴム	自動車部品	

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和2年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
製 造 業	窯業・土石製品	県央地区石材	
		県西地区石材	
		コンクリート製品	
		焼物	新型コロナウイルス感染者がじわじわと増えてきており、再び緊急事態宣言が発令される事態にならないよう徹底した防止策を講じていきたい。新年早々に開催するイベントが中止になることなく実施できることを祈る。
		生コンクリート	
	鉄鋼・金属	鍍金	・受注量は前年同月比5~10%程度減少。自動車関係の受注は比較的増えてきたが、弱電・重電機・機械部品等の業種の取引先の受注が低調であった。9月は比較的順調であったが、10月は落ち込み、11月は持ち直す方向であった。月ごとに受注量の変動が安定しない状況である。 ・金属材料は亜鉛、ニッケル等が値上げ傾向である。貴金属等は高値で推移している。工業薬品については大きな変動は無く前月並みの水準である。
	一般機器	精密機器	
		工業団地	対象7組合員(製造会社)の売上状況は、前年同月と比較して増加が6社、減少が1社となった。全体増減率は前年同月比119.8%であった。得意先の海外向け小型トラクター等の生産が好調に推移していることから受注増加となり、組合員の大半が前年を大幅に上回る売上を確保できた。年明け以降も引き続き受注増加が見込まれ、明るい兆しが見えてきた。
	電気機器	重電	
	輸送機器	自動車部品	生産高は底を打ち、やや増加に転じたが、先行きは不透明。
		輸送車両	
	その他の製造業		
非 製 造 業	卸売業	水産卸	精算所取扱高は、前年同月比1.16%増加。全体の取扱高は多少増加したものの、量販店以外は仲卸業者、買受人共に飲食店・ホテルの宴会キャンセル等により販売に苦慮している。忘年会・新年会等が相次いで中止になっているとの報告もあり、今後も厳しい状況である。公設卸売市場では、毎年恒例の市場感謝祭(12月27~30日)が新型コロナウイルス対策で中止することとなった。
		県南地区卸	売上高は徐々に回復しつつある。
		食品卸	野菜・果実合計で、前年同月比83%の取扱高となった。秋に目立った台風が少なく、天候も比較的良好だったため多くの品目が順調に生育し、出荷量が増加。それにより、単価が急激に落ち込んだことが影響したと考えられる。果実に関しては、全体的に出荷量・単価ともにほぼ例年並みに落ち着いた。
		セメント卸	袋セメントの出荷袋数は前年同月比103.9%と増加。銚田地区で大口の法面工事が行われ、この特需により前年同月を上回った。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和2年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非 製 造 業	小売業	
	県北地区共同店舗	前年同月比で売上88.9%、客数102.7%となり、前年同月の売上を確保した店舗は53%であった。市のプレミアム商品券の利用が10月に比べ減少。12月の二次販売に期待したい。
	県央地区共同店舗	館全体の売上は前年同月比104%、食品は同115%、飲食は同100%となった。引き続き新型コロナウイルスの影響により時短営業店舗がある。10月2日発売の市のプレミアム商品券の使用状況が好調。GoToEatは飲食店舗にて利用を開始した。
	県南地区共同店舗	新型コロナウイルス感染拡大により、客数が激減し苦しんだ。特にサービス業種では、客数は前年同月比70%と大苦戦。かろうじて衣料品は、気温低下により前年同月の売上を上回った。先行き不安の中、テナント契約そのものに影響が出るのが心配である。売上は前年同月比で、全体92.7%、衣料品110.6%、文化品61.4%、食料品92.7%、飲食98.4%、サービス89.8%となった。
	クレジット	
	家電	業界を挙げて新型コロナウイルス感染対策強化中。特別定額給付金により家電購入者は増加したが、ここしばらくは市場は紆余曲折が予想される。売上増加に向けて、巣ごもり需要に対して4K・8Kテレビ、高付加価値商品の提案、空気清浄機等の除菌商品の提案、情報発信強化に努める。顧客への訪問活動など、年末に向けて更なる創意工夫を行っていく。
	石油	コロナ禍による石油燃料の消費は9割程度で、未だに10割まで回復していない。また、大手業者が販売量を増やすべく安値で販売をしており、地元業者は適正なマージン確保に至っていない。また、季節商品である灯油についても同様に大手業者の安値販売に地元業者は苦慮している。
	農機具	
	中古自動車	前年同月比で販売台数が80.6%と大幅に減少したことにより、売上高も78.7%と減少。消費増税実施後に販売が低迷した前年を更に上回る落ち込みとなった。また、流通車の減少により仕入価格の高騰が長引いており、厳しい小売環境が続いている。
	飲食品	当組合の組合員は食品流通業のため、新型コロナウイルスの中での食のライフラインを担っていることから、組合員の売上は比較的好調に推移してきている。ただし、11月に入り一時期の好調さに陰りが見え始めていたが、下旬には新型コロナウイルス第3波により、上昇傾向に転じている。その中で店舗側でも感染リスクが高く、十分な防止策・予防策を行いながらの営業が続いている。家庭での巣ごもりが徐々に増えているなかでその需要に関係するドライ備蓄品、飲料等の売上が伸びてきている。
商店街	水戸	GoToEat、GoToトラベルの地域共通クーポンを併用して利用する顧客が多く、売上に寄与。東京都の警戒レベル引き上げ等により、3連休後の売上は前の週の半分以下となった。
	筑西	新型コロナウイルス第3波の影響で、一段と売上・収益等が悪化している。
サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)は、前年同月比で普通車が101.9%、軽自動車が95.7%となり、普通車は微増、軽自動車は減少となった。
	ホテル・旅館	GoToトラベルにより宿泊は前年同月比で微増となったが、宴会は同8~9割の減少となった。顧客は、県内が3割程度、茨城県を除く関東圏が5~6割程度となっている。しかし、土浦・つくばエリアではクラスター発生等の影響が想像以上に大きく、イベントの中止、忘年会のキャンセルによる宿泊のキャンセルと負の連鎖が続いている。
建設業	総合	年度末完成に向けた工事が盛況である。特にコンクリート工事が本年は活況であるため、工程表の予定打設の日に生コンクリートが手に入らず、工程の遅れが生じている。これは市、県の工事で同種のコンクリート工事が同時期に多かったことが原因であると考える。
	電気工事	
	管工事	
	交通安全施設	
	型枠工事	今月の業況は増加や好転の組合員が一部あったが、ほとんどが不変であった。しかし、新型コロナウイルスの影響で着工時期の延期や計画の中止等の物件が見受けられた。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和2年11月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
非製造業	運輸業	11月の組合員数は116名、車輛台数は149台で10月と比較して組合員数変化なし、1台増加となった。また、全国連合会での10月の組合員数は7,607名、車輛台数は9,029台で前月と比較して27名減少、27台減少であった。 組合の売上減少により、家賃支援給付金の申請を10月に行い11月に入金された。
	県北地区一般貨物	主要顧客の出荷物量は回復傾向にあるが、未だ昨年と比べると少し減少しており売上高も減少している。今月も燃料価格はほぼ横ばいが続いている。
その他の非製造業		

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	パン	学校給食におけるパン給食の増加要望
	酒	酒造業者は新型コロナウイルスにより重大な経済的被害を受けており、今後の経営存続に懸念が生じている。行政への再度の持続化給付金等の財務支援のご検討をお願いしたい。
	菓子	ワクチン接種を早く。
小売業	県央地区共同店舗	コロナ禍による消毒液などの消耗品経費もかさみ、大きな負担となっている。コロナに関する消耗品費用など継続的な支援(補助金)を希望する。
	石油	・新型コロナウイルス感染症による経営環境悪化に対する補償。(ガソリンスタンドでは、いばらきアマビエちゃん事業者登録協力金の対象外となっているので範囲を広げてほしい等) ・揮発油税に課税している二重課税の廃止。
建設業	総合	国、県、市の工事発注のスケジュール調整機関があると、同種・同資材の発注調整ができ工事の平準化とともに資材製作の平準化ができ無駄が省けると思う。そのような調整機関の整備を望む。
	型枠工事	建設業界は、慢性的な労務不足になっています。官民を挙げて、建設業の大切さや魅力をアピールし、新卒高校生や別の業界にいる人まで巻き込んで、生産性のUPに繋げていきたいと思っています。

月次景況調査 11月のDI（前年同月比）

項目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	11月	10月	前月比	11月	10月	前月比	11月	10月	前月比
景 況	▲ 42.0	▲ 34.0	▲ 8.0	▲ 50.0	▲ 38.5	▲ 11.5	▲ 33.3	▲ 29.2	▲ 4.1
売 上 高	▲ 32.0	▲ 16.0	▲ 16.0	▲ 42.3	▲ 34.6	▲ 7.7	▲ 20.8	4.2	▲ 25.0
収 益 状 況	▲ 46.0	▲ 44.0	▲ 2.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 41.7	▲ 37.5	▲ 4.2
販 売 価 格	▲ 12.0	▲ 6.0	▲ 6.0	▲ 3.8	▲ 7.7	3.9	▲ 20.8	▲ 4.2	▲ 16.6
取 引 条 件	▲ 14.0	▲ 14.0	0.0	▲ 7.7	▲ 7.7	0.0	▲ 20.8	▲ 20.8	0.0

中小企業月次景況調査(令和2年11月)DI値(前年同月比)

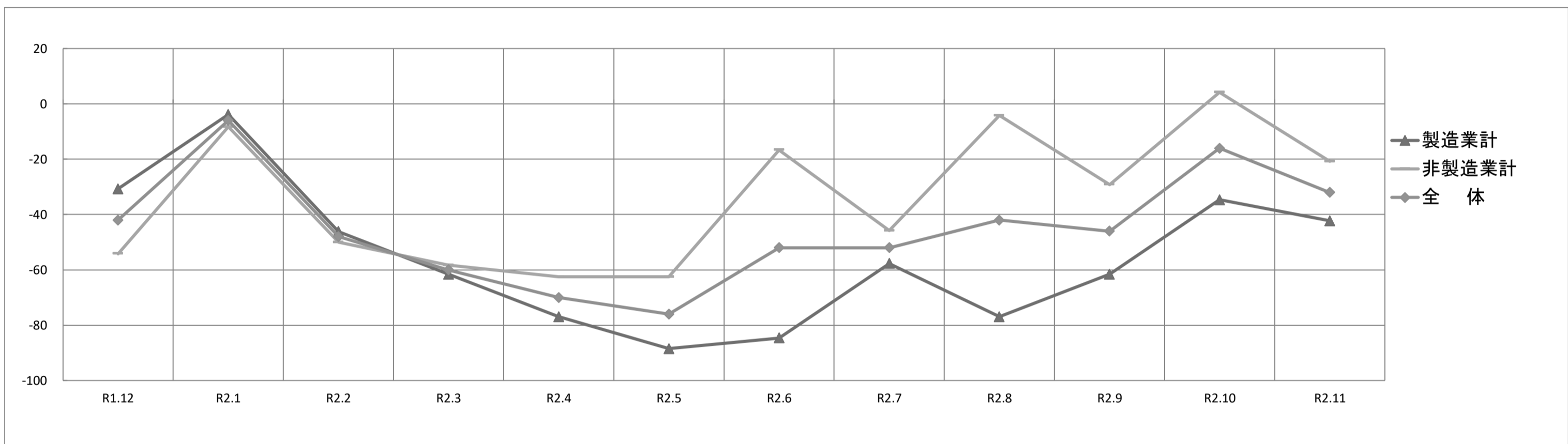
	売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況																
	DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)				DI	(内 訳)																	
		増加	不変	減少	業界数		増加	不変	減少	業界数		上昇	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		好転	不変	悪化	業界数		増加	不変	減少	業界数	好転	不変	悪化	業界数										
製造業	食料品	△ 50.0	1	1	4	6	0.0	1	4	1	6	0.0	0	6	0	6	0.0	0	6	0	6	△ 50.0	1	1	4	6	△ 33.3	1	2	3	6	△ 33.3	1	2	3	6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 66.7	0	2	4	6			
	繊維工業	△ 100.0	0	0	3	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 100.0	0	0	3	3	△ 66.7	0	1	2	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 100.0	0	0	3	3			
	木材・木製品	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3			
	紙・紙加工品	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1			
	印刷	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1			
	化学・ゴム	△ 100.0	0	0	1	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1			
	窯業・土石製品	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5			
	鉄鋼・金属	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1			
	一般機器	0.0	1	0	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	50.0	1	1	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2			
	電気機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1			
	輸送機器	0.0	1	0	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 100.0	0	0	2	2	△ 100.0	0	0	2	2	0.0	1	0	1	2	0.0	0	2	0	2	△ 100.0	0	0	2	2			
製造業計	△ 42.3	4	7	15	26	△ 3.8	2	21	3	26	△ 3.8	1	23	2	26	△ 7.7	0	24	2	26	△ 50.0	1	11	14	26	△ 34.6	1	15	10	26	△ 15.4	3	16	7	26	△ 15.4	0	22	4	26	△ 50.0	0	13	13	26				
非製造業	卸売業	25.0	2	1	1	4	25.0	1	3	0	4	0.0	1	2	1	4	0.0	0	4	0	4	25.0	1	3	0	4	25.0	1	3	0	4					0.0	0	4	0	4	25.0	1	3	0	4				
	小売業 (商店街含む)	△ 27.3	4	0	7	11	0.0	2	7	2	11	△ 27.3	0	8	3	11	△ 36.4	0	7	4	11	△ 72.7	1	1	9	11	△ 63.6	0	4	7	11					△ 18.2	0	9	2	11	△ 63.6	1	2	8	11				
	サービス業	△ 50.0	0	1	1	2					△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2					0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2					
	建設業	0.0	1	3	1	5					△ 20.0	0	4	1	5	0.0	0	5	0	5	0.0	1	3	1	5	0.0	0	5	0	5					0.0	0	5	0	5	20.0	1	4	0	5					
	運輸業	△ 100.0	0	0	2	2					0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 100.0	0	0	2	2	△ 50.0	0	1	1	2					0.0	0	2	0	2	△ 100.0	0	0	2	2
	非製造業計	△ 20.8	7	5	12	24	6.7	3	10	2	15	△ 20.8	1	17	6	24	△ 20.8	0	19	5	24	△ 41.7	3	8	13	24	△ 33.3	1	14	9	24					△ 8.3	0	22	2	24	△ 33.3	3	10	11	24				
全体	△ 32.0	11	12	27	50	0.0	5	31	5	41	△ 12.0	2	40	8	50	△ 14.0	0	43	7	50	△ 46.0	4	19	27	50	△ 34.0	2	29	19	50	△ 15.4	3	16	7	26	△ 12.0	0	44	6	50	△ 42.0	3	23	24	50				

D I 値推移表 (R1.12月 ~ R2.11月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11
食料品製造業	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 100.0	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 25.0	5.0	▲ 45.0	▲ 60.0	▲ 80.0	▲ 90.0	▲ 90.0	▲ 55.0	▲ 70.0	▲ 60.0	▲ 20.0	▲ 40.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 3.8	▲ 46.2	▲ 61.5	▲ 76.9	▲ 88.5	▲ 84.6	▲ 57.7	▲ 76.9	▲ 61.5	▲ 34.6	▲ 42.3
卸売業	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	25.0	50.0	0.0	50.0	25.0	100.0	25.0
小売業(商店街含む)	▲ 36.4	0.0	▲ 72.7	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 27.3	▲ 63.6	▲ 9.1	▲ 36.4	▲ 9.1	▲ 27.3
サービス業	▲ 100.0	0.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 100.0	0.0	▲ 20.0	20.0	▲ 20.0	20.0	0.0
運輸業	▲ 100.0	0.0	0.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0
非製造業計	▲ 54.2	▲ 8.3	▲ 50.0	▲ 58.3	▲ 62.5	▲ 62.5	▲ 16.7	▲ 45.8	▲ 4.2	▲ 29.2	4.2	▲ 20.8
全体	▲ 42.0	▲ 6.0	▲ 48.0	▲ 60.0	▲ 70.0	▲ 76.0	▲ 52.0	▲ 52.0	▲ 42.0	▲ 46.0	▲ 16.0	▲ 32.0

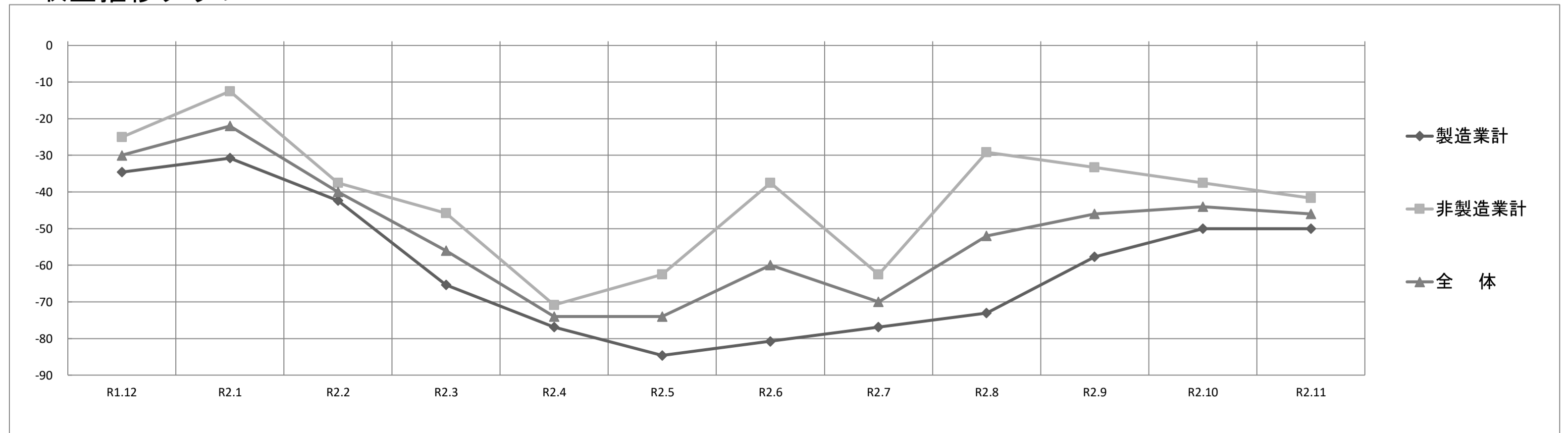
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 83.3	▲ 50.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 65.0	▲ 80.0	▲ 90.0	▲ 80.0	▲ 85.0	▲ 80.0	▲ 65.0	▲ 40.0	▲ 50.0
製造業計	▲ 34.6	▲ 30.8	▲ 42.3	▲ 65.4	▲ 76.9	▲ 84.6	▲ 80.8	▲ 76.9	▲ 73.1	▲ 57.7	▲ 50.0	▲ 50.0
卸売業	▲ 50.0	0.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 75.0	0.0	25.0	▲ 25.0	25.0	50.0	50.0	25.0
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 36.4	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 72.7	▲ 81.8	▲ 63.6	▲ 90.9	▲ 45.5	▲ 63.6	▲ 63.6	▲ 72.7
サービス業	▲ 50.0	50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	0.0	20.0	▲ 40.0	▲ 40.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 45.8	▲ 70.8	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 62.5	▲ 29.2	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 41.7
全体	▲ 30.0	▲ 22.0	▲ 40.0	▲ 56.0	▲ 74.0	▲ 74.0	▲ 60.0	▲ 70.0	▲ 52.0	▲ 46.0	▲ 44.0	▲ 46.0

《収益推移グラフ》

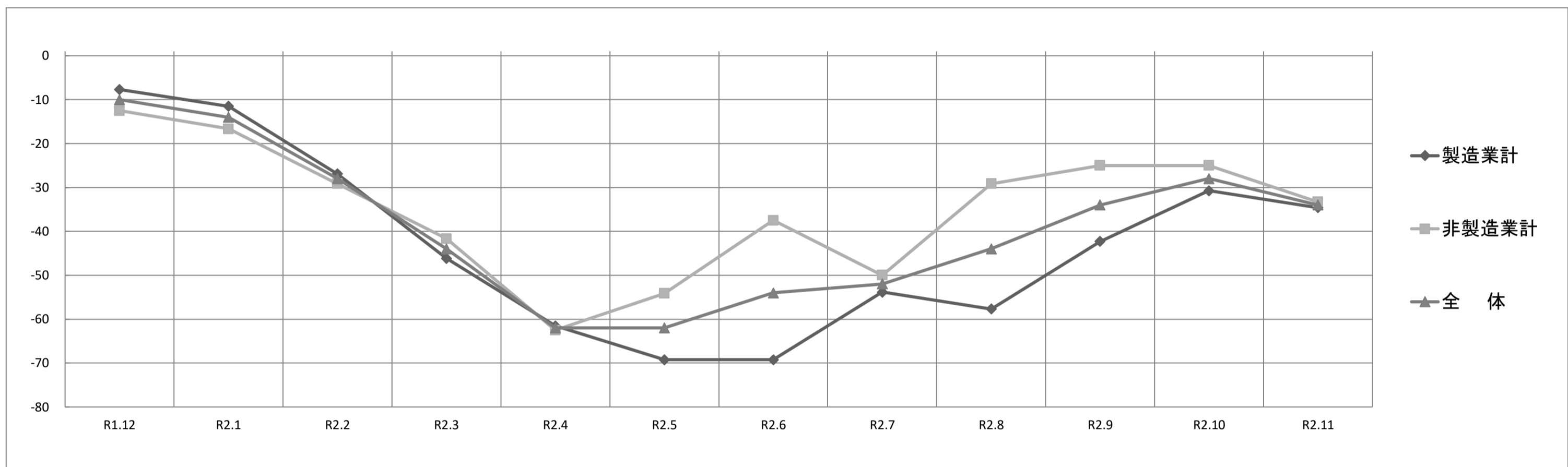


D I 値推移表 (R1.12月 ~ R2.11月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11
食料品製造業	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 33.3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 5.0	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 40.0	▲ 55.0	▲ 65.0	▲ 65.0	▲ 60.0	▲ 55.0	▲ 45.0	▲ 25.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 7.7	▲ 11.5	▲ 26.9	▲ 46.2	▲ 61.5	▲ 69.2	▲ 69.2	▲ 53.8	▲ 57.7	▲ 42.3	▲ 30.8	▲ 34.6
卸売業	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 75.0	▲ 25.0	25.0	▲ 25.0	25.0	50.0	50.0	25.0
小売業(商店街含む)	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 63.6	▲ 90.9	▲ 81.8	▲ 72.7	▲ 81.8	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 63.6
サービス業	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
非製造業計	▲ 12.5	▲ 16.7	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 62.5	▲ 54.2	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 33.3
全体	▲ 10.0	▲ 14.0	▲ 28.0	▲ 44.0	▲ 62.0	▲ 62.0	▲ 54.0	▲ 52.0	▲ 44.0	▲ 34.0	▲ 28.0	▲ 34.0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	R2.4	R2.5	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 83.3	▲ 66.7
製造業(食料品製造業以外)	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 50.0	▲ 55.0	▲ 85.0	▲ 85.0	▲ 80.0	▲ 75.0	▲ 70.0	▲ 60.0	▲ 25.0	▲ 45.0
製造業計	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 50.0	▲ 57.7	▲ 80.8	▲ 80.8	▲ 80.8	▲ 69.2	▲ 65.4	▲ 57.7	▲ 38.5	▲ 50.0
卸売業	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 50.0	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 25.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	25.0	25.0
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 20.0	▲ 72.7	▲ 90.9	▲ 81.8	▲ 81.8	▲ 72.7	▲ 72.7	▲ 45.5	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 63.6
サービス業	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0
建設業	0.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0
運輸業	▲ 50.0	▲ 33.3	0.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0
非製造業計	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 75.0	▲ 75.0	▲ 62.5	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 37.5	▲ 29.2	▲ 33.3
全体	▲ 30.0	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 66.0	▲ 78.0	▲ 72.0	▲ 62.0	▲ 60.0	▲ 50.0	▲ 48.0	▲ 34.0	▲ 42.0

《景況推移グラフ》

